

第1回

第2次安城市市民協働推進計画策定のための

協働井戸端会議

2017.02.19.Sun

かわら版

新しい市民協働推進計画のための話し合いをスタートしました！

現在安城市では、協働によるまちづくりを進めるため、平成28年度と29年度の2年間をかけて『第2次安城市市民協働推進計画』の策定を進めています。

計画の策定にあわせて、地域の抱える課題を解決するために、町内会や市民活動団体、市民が連携・協働して取り組む事業を話し合う“協働井戸端会議”を設けました。2月19日にその第一回話し合いが行われ、市民目線で現在の市民協働推進計画を評価しました。

第1回会議の前半では、計画策定の体制、スケジュールについて説明を受けた後、昨年7～8月に実施された「市民協働に関するアンケート」の結果、現在の市民協働推進計画の進捗状況評価について学びました。かなりのボリュームの資料でしたので見ていただけるのか心配でしたが、みなさん目を通してくださいました。

後半は、現計画の4つの基本方針ごとにチームに分かれ、この4年間で進展したこと、依然として課題となっていることの洗い出し作業を行いました。各テーブルでのファシリテーターは、協働サポータークラブの皆さんが担当しました。その結果概要は裏面の通りです。

第1回 協働井戸端会議

日時：平成29年2月19日（日） 13:30～
場所：安城市民交流センター 多目的ホール

【プログラム】

1. 開会・あいさつ
2. 本日のプログラム説明
3. 計画策定体制とスケジュールを知ろう！
4. ときほぐし（アイスブレイク）
5. これまでの取組からみる現状と課題
6. 現計画の振り返り「現計画を知ろう！」
7. テーマ別ディスカッション
8. 共有タイム
9. 閉会

市民、町内会代表、NPO、行政からの参加者に、今回のワークショップのファシリテーターをお願いする協働サポータークラブメンバーを含め、総勢36人が集まりました。

現在の計画は、下記に記すとおり4つの基本方針のもとに施策・事業が位置づけられています。現計画に記載された事業には何があるのか、まずは「進捗状況評価のあらまし」という資料を熟読するところから作業はスタートしました。その後現計画を市民目線で評価しました。みんなが出し合った意見の一部を紹介します。

安城市市民協働推進計画(2013～2017) キャッチフレーズ みんなで吹かそう！ 協働の風

【基本方針1】 市民協働に関する 情報の収集及び提供

- 市民協働に関する情報をわかりやすく提供し、市民の協働意識の醸成を図ります。
- 市民活動団体の活動をPRし、市民活動への参加のきっかけづくりを行います。



【会議での評価】 ◎=進展したこと ▲=残された課題
◎SNSで情報発信されPRが広がっている。
◎SNS以外にも、市の広報や社協だより等で活動している方の情報を得ることができる。
◎マッチング事業で人がつながってきた。
▲せっかくの情報誌が届け先でとまっている。
▲FBの通知が多すぎる。分野別に発信しては。
▲FB入門講座が、普及につながっていない。
▲参加のきっかけとなる情報が届いていない。

【基本方針2】 市民協働の 担い手の育成

- 学習・活動の機会の提供、活動団体間の連携を促進し、担い手の育成・活用を図ります。
- スキルアップ研修、NPO法人現場体験などにより、意識を持った市職員を育成します。



【会議での評価】 ◎=進展したこと ▲=残された課題
◎シルバーカレッジのOBが楽しく活動している。
◎人材養成講座を通じ協働の重要性が理解できた。
◎市民と職員の協働の場にもなっている。
▲養成講座受講後の活動状況が見えてこない。
▲マッチング交流会継続すれば成果が出るのでは。
▲町内会の運営に女性の目線が活かされていない。
▲市と社協がもっと協調して活動すると良い。
▲市職員の協働意識が低い。理解が薄い気がする。

【基本方針3】 市民活動がしやすい 環境整備と活動の支援

- 拠点となる施設の連携・活用、市民活動センターのコーディネート機能の充実を図ります。
- 財政的側面や専門的ノウハウ等により、市民活動の立ち上げや成長と自立を促します。



【会議での評価】 ◎=進展したこと ▲=残された課題
◎市民活動センター登録団体への支援は充実した。
◎市の課題に取り組む機会ができてきた。
◎自分たちだけではできないこともある。マッチング事業は、他活動を知る良い機会となっている。
▲施設の利用に制約が多い。運用面での改善を。
▲活動補助事業では団体の人件費が計上できない。
▲長く活動している団体向けの補助が少ない。
▲活動したいと考える人への周知・広報が足りない。

【基本方針4】 市民協働の 推進体制の充実、 仕組みづくり

- 協働のコーディネートや支援を行う中間支援団体の設立を支援します。
- 協働事業の実施後の評価を行い、それを広く公開して透明性を確保します。



【会議での評価】 ◎=進展したこと ▲=残された課題
◎市民活動担当者の交流体制はできた。
◎市民協働推進会議が設置され、活動補助事業は着実に進めている。市民が参加する機会は増えた。
◎協働サポータークラブもでき、機運は高まった。
▲協働推進員の配置はできなかった。
▲市民協働推進会議が評価会議になっていないか。
▲協働サポータークラブの活動がよく分からない。
▲市民協働コーディネーターをどう育てるか。

第2回は、『これからの協働のヒントと安城の主要課題』をテーマに3月25日(土)に開催します。